

JAPIC NEWS

Japan Pharmaceutical Information Center

No. 471



■ 巻頭言

創立150周年を迎える国立医薬品食品衛生研究所

国立医薬品食品衛生研究所 所長 本間 正充 2

■ 最近の話題

薬剤師を取り巻く環境変化について ～調剤業務の外部委託とリスクリング～

横浜薬科大学薬学部 実務実習センター 准教授 鈴木 高弘 4

■ インフォメーション

医薬品集発刊! 6

JAPIC「医療用医薬品集 2024」CD-ROM付 9月初旬発刊

JAPIC「一般用医薬品集 2024」 9月初旬発刊

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2024」8月発刊

7月末発売! 7

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版 2023年7月版」

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2023年7月版」

■ トピックス

「理事会」「評議員会」の概要報告 8

第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会に出展しました

■ コラム

くすりの散歩道No.156「夏バテしない体に」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 梅澤 佳枝 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) 10

■ 図書館だより No.397 11

■ 情報提供一覧 11

August 2023

8

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

創立150周年を迎える国立医薬品食品衛生研究所

国立医薬品食品衛生研究所
所長

本間 正充 *Honma Masamitsu*



私は今年の4月に国立医薬品食品衛生研究所(国立衛研)の所長に就任しました。3年前に副所長を拝命し、今回、所長を拝命したことは、まさに青天の霹靂でした。それまで私は、国立衛研の生物試験安全センターの変異遺伝部で30年近く、主に発がんや遺伝毒性の研究に従事してきました。変異遺伝部は国立衛研の中で最も小規模な研究部であり、研究内容も国立衛研の主流ではありません。そのため、私のことを知るJAPIC会員の方は少ないのではと思います。この機会を通じて、私自身ではなく国立衛研について知っていただければ幸いです。なぜなら、国立衛研は来年で創立150周年を迎えます。そのため、現在、所内では来年の記念行事や150年史の刊行に向けた準備が進められています。国立衛研の歴史を簡単に振り返ってみたいと思います(表1)。

表1 国立医薬品食品衛生研究所の歴史

明治 7年 (1874年)	東京司薬場として神田和泉町に設立
明治20年 (1887年)	衛生局東京試験所に改称
昭和21年 (1946年)	世田谷区上用賀に移転
昭和24年 (1949年)	国立衛生試験所に改称
昭和49年 (1974年)	創立100周年
昭和53年 (1978年)	安全性生物試験研究センター設立
平成 9年 (1997年)	国立医薬品食品衛生研究所に改称
平成29年 (2018年)	殿町キングスカイフロント地区に移転
令和 5年 (2024年)	創立150周年

東京司薬所・東京衛生試験所

国立衛研は、明治政府の初代医務局長であった長与専斎により、1874年(明治7年)に「東京司薬所」として東京・神田和泉町に設立されたのがはじまりです。当時の日本は近代国家に向けて急速な発展を目指していましたが、医療や生活衛生に関しても西洋の新しい医学の知識に基づく体制づくりが模索されていました。新しい医学の採用と、新しい医療体制には新しい医薬品が必要となります。重要なことは医薬品の製造と輸入による供給体制を早急に確立することですが、当時の日本では医薬品製造のための知識と技術を持つ人材の育成は始まったばかりであり、医薬品の供給はもっぱら海外からの輸入に頼っていました。輸入された西洋薬

は有効性が高く、すぐに市場に多く出回るようになりましたが、同時に贋薬が横行し始めました。日本政府によりオランダから招請され、当時長崎医学校で化学・薬学の教鞭をとっていたアントン・ゲールツ博士は、日本に輸入された薬品には贋造品が多く、この状況を放置すれば、日本国民の健康を脅かすことにもなりかねないことを警告し、長与専斎に海外から輸入される医薬品の検査をする機関の設立を提言しました。これが、東京司薬所の開設に繋がりました。その前年、長与専斎は、第一大学区医学校(現在の東京大学医学部の前身)に製薬学科を設立するに当たり伺書を提出しています。そこには「薬石の製煉、真贋の鑑別、輸出入の方法、毒殺の裁判に至る、皆これに関係せざるはない。故に文明諸国では殊にこれが重ざれている。……しかしわが国民は従来物理に暗く、これらを製煉して医薬に供することを知らない。……輸入の医薬についてもいたずらに洋商の奸計に陥り、贋造品を販売しても誰もこれに気がつかない。今すぐにでも方策を講じなければ一億国民の生命を危険にし、国を危うくしてしまう……」とあります。まさに、日本の薬学の始まりと東京司薬所の創立は一体であることを物語っています。東京司薬所は後に、明治20年(1887年)に「東京衛生試験所」と改称されました。また、その前年には「日本薬局方」の初版が発行されました。

大正時代には、第一次大戦の影響により、医薬品の輸入が途絶えたため、東京衛生試験所でも重要医薬品の製造を開始し、多くの医薬品の国産化に成功しました。これにより、従来の輸入に頼っていた日本の製薬産業の近代化の基盤が確立されました。

国立衛生試験所

第二次世界大戦中の苛烈な空襲により、東京・神田和泉町にあった東京衛生試験所の建物は全館が焼失し、残念ながら71年にわたる歴史に幕を閉じました。戦後の混乱期には国民の健康保護のため、公衆衛生の改善が急務であり、当時の松尾仁所長は東京衛生試

験所の業務再開を目指し奔走しました。そして、当時米軍に接収されていた旧陸軍衛生材料廠の一部（東京都世田谷区上用賀）に移転することができ、昭和21年（1946年）に業務を再開しました。さらに、昭和24年（1949年）には国の福祉、社会保障、公衆衛生の向上を主旨とした「厚生省設置法」が制定され、この法律の中で当試験所の任務が明確化され、「国立衛生試験所（国立衛試）」と改称されました。戦後は物資不足により粗悪な医薬品が流通している状況が生まれました。このため、日本政府は戦中に制定された薬事法を改定し、国立衛試は医薬品の国家検定を実施しました。また、標準品の製造も開始されました。

戦後の復興期は食料の確保も重要な課題であり、昭和23年（1948年）に食品衛生法が施行され、国立衛試は医薬品だけでなく、食品検査業務にも忙殺されるようになりました。このような中で、原爆汚染マグロ問題、黄変米問題、ヒ素混入粉ミルク中毒事件、PCB混入米ぬか油事件などの食品衛生上の出来事が相次いで発生し、国立衛試は高度な分析技術によりこれらの問題解決に大きく貢献しました。また、戦後の急速な産業の発展に伴い、大気汚染や水質汚濁などの公害問題も深刻化しました。水俣病事件では、環境試料や生体試料について各種試験を行い、有機水銀などの検出・分析も行いました。

昭和30年（1955年）からはキノホルムによるスモン病、サリドマイド、アンプル入り風邪薬等の薬害事件が多発しました。また、食品添加物として戦後使われてきたチクロ、ブルチン、AF-2などの毒性、特に発がん性が問題となり使用が禁止されました。このため、医薬品や食品関連化学物質などの安全性を確認するための体制整備と、安全性試験研究の円滑な遂行のため、昭和53年（1978年）に医学、薬学、獣医学の専門家を擁する大規模な安全性生物試験センターが設置され、わが国における安全性試験研究の中心的役割を果たすこととなりました。JAPICもこの時期に設立されていますが、その理由は、当時多発する薬害事件により医薬品の安全性に対する国民の関心が高まり、医薬品情報の共同管理の重要性が認識されたためと聞いております。また、このような医薬品の副作用による健康被害者の迅速な救済を図ることを目的とした医薬品副作用被害救済制度が創設されたのもこの時期です。

平成の時代を迎えると、遺伝子工学や細胞培養技術の発展により、モノクローナル抗体、ヒト成長因子、抗がん剤など、さまざまなバイオ医薬品が開発されるようになりました。また、新剤形医薬品、新医療材料、新開発食品なども登場し、新たに評価が必要な対象が拡大しました。さらに、安全性評価のための新しいリスクアセスメントが必要となりました。私が国立衛試に採用されたのもちょうどこの頃です。

国立医薬品食品衛生研究所

平成9年（1997年）、薬事行政全般の見直しが行われ、国立衛生試験所は「国立医薬品食品衛生研究所」に改称されました。その時、私は厚生省（当時はまだ厚生省）に出向していましたが、改称は当時の菅直人厚生大臣の鶴の一声で決まったことをよく覚えています。ま

た、このとき同時に、医薬品等の承認等審査を行う医薬品医療機器審査センター（現在のPMDA）が国立衛研内に新設されました。

平成14年（2002年）、厚労省の施設等機関の再編の一環として、国立感染症研究所、国立公衆衛生院からの一部組織移管などにより新たな部が新設され、平成17年（2005年）には医薬品医療機器審査センターや大阪支所、全国4ヶ所の薬用植物栽培試験場などの一部機能が独立行政法人に移管されることになりました。さらに、平成20年（2008年）の組織改編や平成26年（2014年）の薬事法の改正等により、一部所掌の見直しが行われ、部の振り替え設置が行われました。現在、国立衛研は医薬品・医療機器・再生医療等製品部門（7部）、生活衛生・食品安全部門（5部）、複合領域・情報・基礎支援部門（3部）、安全性生物試験研究センター（5部）の計20研究部からなりますが、この体制はこの時に確立されました。

殿町キングスカイフロント地区への移転

昭和63年（1988年）、国立衛試は閣議決定により移転対象施設となり、当初は東京都府中市の府中基地跡地への移転を検討していました。しかし、都市計画等の手続きの見通しがたたなくなり、移転の実現は困難な状況となり、20年以上にわたり移転計画は頓挫していました。その後、神奈川県川崎市から誘致を受け、川崎市川崎区殿町地区への移転が平成24年度（2012年）に決定し、平成30年（2018年）年4月には新研究所の開所式が行われました。殿町地区は、川崎市がライフイノベーション事業の振興を目的に国際戦略拠点キングスカイフロントとして整備を進めている地区であり、現在、医薬品・医療機器・再生医療や健康安全に関連する約70の研究所、大学、民間企業などが集積しています。このキングスカイフロント地区の研究機関と連携し、革新的医薬品や医療機器、再生医療などの先端的医療製品の開発を支援することが新たな取り組みです。

150年の歴史を振り返ると、時代の変化や科学技術の進歩に伴い、医薬品や衛生、環境を取り巻く社会問題も変遷してきました。しかし、国立衛研の本来の研究業務である「医薬品・食品・化学物質等の人間への影響について、品質・安全性・有効性を科学的に正しく評価するための試験研究」は、いつの時代でも揺るぎないものでした。この研究業務の遂行に対して、所員のインセンティブを高めるため、昭和51年（1977年）、内山充第21代所長（当時副所長）は「レギュラトリーサイエンス」という考えを提唱しました。これは、基礎研究でも応用研究でもなく、新しい科学技術の成果を国民に安全に提供する、つまり社会と人にとり調和を図る研究のことです。我々はこの理念を引き継ぎ、レギュラトリーサイエンスの実践を通じて人と社会に貢献することを誇りに思い、次世代に受け継いでいきたいと考えています。



最近の話題

薬剤師を取り巻く環境変化について ～調剤業務の外部委託とリスクリング～

横浜薬科大学薬学部 実務実習センター 准教授
鈴木 高弘 Suzuki Takahiro



I. 薬剤師を取り巻く環境変化

最近、薬剤師の仕事に関わる規制が緩和されるなど、薬剤師を取り巻く環境は変化している。これにより、薬剤師と医薬品の関係性も変わってきた。具体的には、「リフィル処方解禁」、「電子処方せんの開始」、「オンライン服薬指導の普及」、「要指導薬のオンライン服薬指導」、「薬剤師によるテレワーク」、「処方せん40枚規制の見直し」、「スイッチOTC化推進」、「調剤業務の外部委託の規制緩和」等、数々の規制改革等の実施（計画含む）がある¹⁾。これらの施策によって、対物業が効率化され、対人業務（医師への疑義照会、丁寧な服薬指導、在宅訪問での薬学管理、副作用・服薬状況のフィードバック、処方提案、残薬解消等）の充実が期待される。

そこで今回は、「調剤業務の外部委託」と「薬剤師のリスクリング」について話題提供する。

II. 調剤業務の外部委託

薬剤師の対人業務の充実を図るためには、対物業である調剤を効率化することが、ひとつの手段として考えられる。特に調剤業務の一部である「調製」作業をアウトソーシングすることは、社会的にも受け入れやすいことであると考えられる。国家戦略特別区域での調剤業務の一部外部委託の実証事業を推進する「薬局DX推進コンソーシアム」が設立された²⁾。先行導入している米国におけるリパッケージセンターのメリットとデメリットについて整理しながら、本邦における課題についても考える。

1. リパッケージセンター（米国）

リパッケージセンターは、処方せんの調剤を外部に委託する米国のシステムである。主な特徴を以下に示す。

【メリット】

① 処方せんの分割と分包

処方せんを分割・分包し、服薬タイミングごとに一包化することもある。これにより、患者さんが複数の薬を

手際よく準備することが可能となり、服薬コンプライアンスが高まる。

② 自動化されたプロセス

高度に自動化されたシステムを使用して、処方せんに従い調整（調剤）する。高精度の機械作業により、誤りやヒューマンエラーのリスクが確実に低減される。

【デメリット】

① 規制要件

厳格な規制要件に準拠する必要がある。具体的には、施設登録、品質管理の実施、適切な設備と設備の保持、処方せんの機密性の確保などが含まれる。

② コスト

オートメーション化されたシステムや規制要件への準拠には、高いコストがかかる場合がある。また、リパッケージセンターを利用するための保険カバレッジや支払い方法も課題となることがある。

2. 本邦における課題

本邦における調剤業務の外部委託（以下、外部委託）は、薬局やドラッグストアなどの医療機関以外の事業者に処方せんの調剤（調製）を委託することも考えられる。いわゆる異業種からの参入が見込まれるため競争がさらに激化するだろう。以下の課題についても考慮する必要がある。

① 医薬品の品質管理

品質管理の目的は、安全性と有効性が確保された医薬品を提供することである。原材料の品質管理、製造プロセスの管理、内部監査や品質リスク評価なども含めた品質管理システム、品質評価と検査、ロット管理とトレーサビリティ、品質文書と記録の管理等が求められる。患者さんや消費者が安全で有効な医薬品を利用できるような指針作成が必要となる。

② 薬剤師不足

薬剤師の人手不足（偏在）が深刻な課題となっている。外部委託先における薬剤師の確保と配置人数が課題となる。ただ、外部委託先において就労するスタッ

フを非薬剤師にすることによって解決できる。

③コミュニケーションの課題

外部委託先と医療機関（委託元）の間で円滑なコミュニケーションを確保することが重要である。処方内容、患者情報の共有、調剤（調製）ミス防止対策などの情報伝達が課題となる。

Ⅲ. 薬剤師とリスクリング

1. 薬剤師にリスクリングは必要？

現代の薬剤師業界は、技術の進歩や医療のデジタル化が進んでおり、それに伴って薬剤師の役割も変化している。そのため、薬剤師には新しいスキルや知識を習得する必要がある。これがリスクリングの重要性である。

具体的には、情報技術の知識やデジタルツールの活用方法、データ解析やデータ駆動の判断方法、チームワークやコミュニケーションスキルなどが求められる。薬剤師は、これらのスキルを磨くことで、新しい医療環境に対応し、より効果的な医薬品管理や患者ケアを提供することができるようになる。

競争が激化する混沌とした時代において、患者さんから選ばれる薬剤師になるためには、アップスキリングにくわえて、リスクリングすることによって、多様な役割に対応できる、多彩なスキルを身につけることが重要である。

リスクリングは、薬剤師としての価値を高め、将来の仕事内容の変化に柔軟に対応できる人材となる。現代において活動する薬剤師にとって、リスクリングは必要である。

2. 「薬剤師リスクリング研究会」の発足

上述によって、薬剤師にとってもリスクリングは重要であることがわかった。しかしながら、中小規模の薬局にとっては、具体的にどのように取り組むべきか悩ましい。そこで、2023年4月に本学関係者を中心に「薬剤師リスクリング研究会」（以下、本研究会）を発足した。本研究会で取り組む内容を提示する。

【本研究会の取り組みなど】

①ニーズの調査と分析

活動地域における薬剤師のニーズを明確に把握するために、アンケート調査やインタビューなどを積極的に取り組むことが重要である。本質的に薬剤師が直面している課題や必要なスキルについて理解することがまず重要である。

②スキルの特定と訓練プログラムの提供

薬剤師が必要とする新しいスキルや知識を特定し、それに基づいて訓練プログラムを開発する。例えば、データ分析やコミュニケーションスキル、情報技術に関

するトレーニングなどが考えられる。

③プロフェッショナルネットワーキングの促進

研究会を通じて、薬剤師同士のネットワーキングや情報共有を促進する。他の薬剤師や関連業界の専門家とのつながりは、新たな機会やアイデアの発見につながることもある。

④外部の専門家や講師の招聘

研究会には、専門知識を持つ外部の講師や専門家を招聘することも検討する。彼らの経験や洞察を通じて、薬剤師に新しい視点を提供することができる。

⑤実践的なプロジェクトや実習の提供

新しいスキルを身につけるためには、実践的な経験が重要である。実践的なプロジェクトや実習の機会を提供し、薬剤師が学んだ知識を実際の業務に活かせるようサポートする。

⑥持続的な学習と成長の支援

リスクリングは一度きりではなく、持続的な学習と成長が必要である。研究会が継続的なサポートや学習の機会を提供することで、薬剤師が自己啓発を続けられる環境を整える。

本研究会の世話人とともに、具体的な参加者のニーズに応じて、詳細なプランを作成する。ご興味・ご関心ございましたら、お気軽にお声かけください。みなさまとともに夢のある薬剤師の未来を築き上げていきましょう。

参考文献

- 1) 鈴木高弘：近年の薬剤師を取り巻く環境変化と医薬品包装への願い～医薬品のエンドユーザーである患者からの要望を含めて～、日本薬剤学会第38年会抄録集、2023
- 2) 狭間研至：「薬局DX推進コンソーシアム」について、2023(<https://pharmedico.com/pdpc-lp/> 検索日：令和5年7月1日)

医薬品集発刊！

JAPIC「医療用医薬品集2024」CD-ROM付 9月初旬発刊

◆6月の後発品収載に対応◆

《本書の特長》

- ◇2023年5月の新薬収載、6月の後発品収載分までの医療用医薬品を網羅（約21,000製品）
- ◇医療用医薬品電子添文情報を有効成分（約2,300成分）ごとにまとめて掲載。
約1,500成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品（またはそれに準じるとされる医薬品）と後発品及び局方品が明確に
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ◇医療用医薬品電子添文情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識別コード情報を収録し、
最新医療用医薬品電子添文へのリンク機能*を搭載した検索用CD-ROM（インストール版）を添付
*インターネットを経由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の添付文書PDFを表示
- ◇本文2分冊+その他（付録、薬剤識別コード）1冊の3分冊を予定

◆価格：14,300円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



JAPIC「一般用医薬品集2024」 9月初旬発刊

《本書の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅（約10,000製品収録）
- ◇「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ◇付録に重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、リスク区分情報等を収録

◆価格：9,900円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2024」8月発刊

《本書の特長》

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊
- ◇医療用医薬品集掲載の医薬品のうち添付文書に識別コード・包装コードの記載のある品目を掲載
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名（会社名）、一般名、規格単位、
薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列

◆価格：1,100円（税込）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）



7月末発売！

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2023年7月版」

◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。

(2023年6月までのJAPIC入手分を収録)

◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。

データ出力形式は、タブ区切り／カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。

◇薬価、先発品等／後発品情報、規制区分、剤形、添加物、

薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。

◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。

インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。

◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。

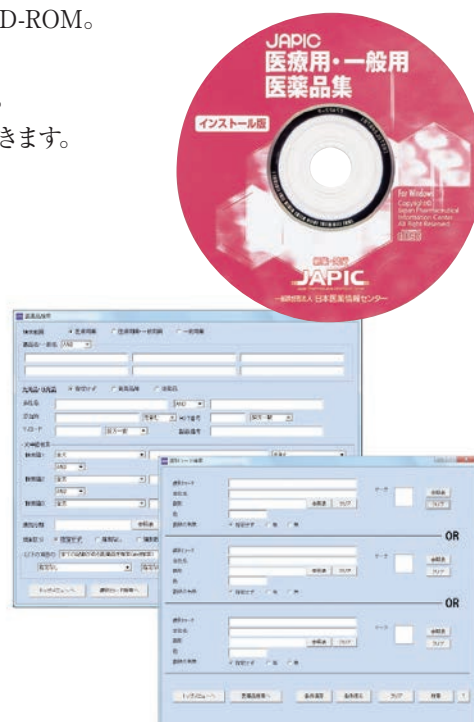
(医療用：週1回更新、一般用：月1回更新)

◆価格：単回 14,300円(税込)

年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) 26,186円(税込)

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当(TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2023年7月版」

◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報

(2023年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。

◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。

◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。

◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。

◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。

◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。

◆価格：3,300円(税込)

〔年1回発行(次回発行は2024年7月予定)〕

〔お問合せ先〕

事務局 渉外担当(TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



「理事会」「評議員会」の概要報告

令和4年度の事業報告及び決算についての理事会及び評議員会を5月31日(水)、6月19日(月)にそれぞれ開催いたしました。

今回の主な議題でありました事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに概ね順調に推移していることをご報告し、原案どおり承認・議決されました(議題は以下のとおり)。なお、会員の皆様には、令和4年度事業報告書・決算報告書を先般ご送付いたしました。

また、5月31日(水)の理事会において役付理事が選定されましたので、以下のとおりお知らせいたします。

○「令和5年度第1回(通算第161回)理事会」 5月31日(水) 15:00~16:00、当センター4階会議室

《議題》

1. 役付理事(副会長)の選定について
2. 令和4年度事業報告の承認について
3. 令和4年度決算報告の承認について
4. 公益目的支出計画実施報告の承認について
5. 定時評議員会の招集の決定について
6. 報告事項
 - (1) 維持会員の異動について
 - (2) 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告について

○「令和5年度第1回(通算第54回)評議員会」 6月19日(月) 15:00~15:50、当センター4階会議室

《議題》

1. 令和4年度決算報告の承認について
2. 報告事項
 - (1) 令和4年度事業報告について
 - (2) 公益目的支出計画実施報告について

【役付理事】

《非常勤》

副会長 茂松 茂人(公益社団法人日本医師会 副会長)

以上 5月31日付

(※敬称略)

第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会に出展しました

2023年6月10日(土)から6月11日(日)にかけて、京都薬科大学躬行館にて開催された第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会に出展しました。本大会はメインテーマを「サステナブルな医療を紡ぐ医薬品情報」とし、サステナブルな構造化された医薬品情報への取り組みや、薬学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版が公開されたことに伴う効果的な教育実践の共有、電子添文の活用現状と課題、医療DX推進に向けたDI収集の効率化、有害事象自発報告データベースの研究・業務への活かし方と課題等をテーマとしたシンポジウムやセミナーが開催され、産官学がそれぞれの立場から研究成果を発表していました。4年ぶりとなる現地開催ということもあって、会場は活気にあふれ、展示会場は参加者で賑わっていました。

JAPICでは継続的に日本医薬品情報学会総会へ出展しており、今大会では有害事象自発報告データベースを取り扱う「JAPIC AERS」を中心にサービスの紹介を行いました。



くすりの散歩道

NO.156

夏バテしない体に

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

梅澤 佳枝 Umezawa Yoshie



今年の夏も全国的に平年より暑いと予想されています。夏が好き、と言う方もいらっしゃると思いますが、特に社会人になって以降、私は夏が大の苦手になってしまいました。

学生の頃は長い夏休みがあり、暑い日中にも外出したり、時には海や山に行ったりと活動的に過ごしていました。社会人になると、暑い時間帯は涼しい冷房の中です。退社後や週末に暑さの中で過ごす、体に熱気がこもったように感じてだるく、食欲がなくなり、冷たい飲み物やアイスを食べでは胃腸の調子を崩して気持ちまでぐったり、と典型的な夏バテ症状に毎年悩まされていました。

そんな時に薬膳教室に通っていた友達から、意識して旬のものを食べるだけでも違うよと言われました。夏野菜のきゅうり、トマト、なすなどは水分とカリウムを多く含み、体にこもった熱を排出してミネラルバランスを整えてくれ、とうもろこしや枝豆は胃腸を整え、夏バテを防止し疲労回復に役立つとのこと。また夏の代表的な果物であるスイカやメロンも体の熱を冷やし、水分不足を補ってくれるのだと教わりました。

薬膳と言うと何か特別に勉強が必要のように思えますが、彼女曰く難しいものではなく、昔から旬のものを食べることで、その時期に起こりやすい体調不良が自然と改善されてきたのだということです。今でも夏は特に意識して旬のものを食べるようにしています。

もう1つ効果があったのは、汗をかく事です。私は7年ほど前からテニススクールに通い始めました。スクールは室内なのですが、そこで出来たテニス仲間から、屋外でのテニスに誘われるようになりました。初めて真夏の屋外テニスに誘われた時は、正気の沙汰じゃない、と思ったのですが、今では毎年夏にも屋外でテニスをしています(勿論風を通しやすい夏用ウェアや帽子の着用、こまめな休憩や水分・塩分補給など、熱中症には十分注意しながらやっています)。行く前は未だに相当な気合が必

要なのですが、行ってプレー後にシャワーを浴びて涼しい風に吹かれれば、体も気持ちもスッキリして、夜はぐっすり眠ることが出来ます。

振り返ってみると、この辺りから夏の間必ず出ていた夏バテらしき症状が全く出ていないのでした。暑さが苦手なるべく涼しいところにいるようにしていたせいか、それまであまり汗をかく方ではなかったのですが、それも大きな原因の1つだったようです。

夏は暑さを感じて適度に汗をかかないと体温調節ができず、熱中症や夏バテの危険が高まっています。汗をかかないでいると、汗腺の機能が弱まってしまうのです。汗をかける体になったことで、暑さに対応できるようになったようです。

夏の屋外テニスはかく汗が「適度」ではないので全くお勧めはしないのですが、軽いウォーキングや室内の運動、長めの半身浴などでも十分効果があるそうです。

今年は今まで我慢していた遠方への旅行や帰省などの予定を立てている方も多いと思います。以前の私のように毎年夏バテしてしまう、という方も、普段の生活を少しだけ見直して、この夏を思い切り楽しんで頂きたいです。



外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2023年6月1日～6月30日分のJAPIC Weekly News (No.905-909) の記事から抜粋

■米FDA

- ICU Medical, 輸液送達に影響を与える可能性のあるバッテリー寿命低下のため、Plum 360, Plum A+, Plum A+3輸液システムの交換用バッテリーをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/icu-medical-recalls-replacement-batteries-plum-360-plum-and-plum-a3-infusion-systems-due-diminished>>
- Draeger Medical, 呼吸サポートを制限するおそれがあるコンポーネントの緩みまたは分離のリスクのため、Seattle PAP Plusおよび呼吸回路/麻酔キットをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/draeger-medical-recalls-seattle-pap-plus-and-breathing-circuit-anesthesia-kits-risk-loose-or-detached>>
- SD Biosensor, Inc., 細菌汚染の可能性があるため、特定のPilot COVID-19 At-Home Testsをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/sd-biosensor-inc-recalls-certain-pilot-covid-19-home-tests-potential-bacteria-contamination>>
- Class I Recall: Abiomed, ポンプ停止やサポート喪失を引き起こす可能性のあるパーズ液漏出のため、SmartAssistを搭載した特定のImpella 5.5をリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/abiomed-recalls-specific-impella-55-smartassist-purge-fluid-leaks-can-cause-pump-stop-and-loss>>
- BearCare, Inc., 使用中の熱傷を含む重篤な損傷のリスクがあるため、充電式Walnut Wearable Smart Thermometersをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/bearcare-inc-recalls-rechargeable-walnut-wearable-smart-thermometers-risks-serious-injury-including>>

■Health Canada

- 患者用リフトと転倒のリスク
<<https://www.canada.ca/en/health-canada/services/drugs-medical-devices/patient-lifts.html>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC): Gavreto (pralsetinib): 結核のリスク増加および本リスクを最小限にするための対策
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/dhpc/direct-healthcare-professional-communication-dhpc-gavreto-pralsetinib-increased-risk-tuberculosis_en.pdf>

■英MHRA

- Glucose溶液: 動脈ラインで生理食塩水の代わりに誤ってglucose溶液を使用することに関するリスクを最小限に抑えるための勧告
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/glucose-solutions-recommendations-to-minimise-the-risks-associated-with-the-accidental-use-of-glucose-solutions-instead-of-saline-solutions-in-arterial-lines>>

■仏ANSM

- 乳酸アシドーシスとmetformin: 回避可能なリスク
<<https://ansm.sante.fr/actualites/acidose-lactique-et-metformine-un-risque-evitable>>

■ニュージーランド Medsafe

- 更新情報－clonidineによる痙攣発作の潜在的リスク
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/SeizuresWithClonidine.asp>>

■シンガポール HSA

- OlympusのSingle Use Repositionable Clip HX-202LRおよびHX-202URの展開の不成功
<<https://www.hsa.gov.sg/announcements/dear-healthcare-professional-letter/deployment-failure-of-olympus-single-use-repositionable-clip-hx-202lr-and-hx-202ur>>
- HeartWare心室補助デバイスシステムのバッテリー不具合の問題を軽減するためのバッテリー交換
<<https://www.hsa.gov.sg/announcements/dear-healthcare-professional-letter/battery-replacement-to-mitigate-battery-fault-issue-for-heartware-ventricular-assist-device-system>>

■医薬品医療機器総合機構

- フトリブチリン塩酸塩製剤におけるニトロソアミン類の検出への対応について
<<https://www.pmda.go.jp/files/000252879.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://tech.libblabo.jp:53081/blabo/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書 名	著 者	出版者	出版年月
Rote Liste 2023	Rote Liste Service GmbH	Rote Liste Service GmbH	2023年

情報提供一覧

2023年7月1日～7月31日提供

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉Free	https://database.japic.or.jp/
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2023年6月分 (HP定期更新情報掲載)	7月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. JAPIC 「医療用・一般用医薬品集インストール版 2023年7月版」	7月21日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. JAPIC 「OTC医薬品CD-ROM 2023年7月版」	7月31日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. 「JAPIC NEWS」 No.471 2023年8月号	7月31日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		5. 日本の新薬	随 時
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	6. 学会開催情報	毎 日
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	7. 医薬品類似名称検索	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	8. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	〈iyakuSearchPlus〉	https://database.japic.or.jp/
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	https://jdream3.com/
		〈株式会社日本経済新聞社から提供〉	https://telecom.nikkei.co.jp/



赤ジャピ50年の伝統を守り
薬剤師を中心とした
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2023年9月
発刊予定



Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

本書の特長

- ◆2023年6月後発品まで収載
- ◆約50年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な電子添付情報をお届けします！
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供（要登録）
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作（ケース入り）

14,300円(税込) B5判 約4,600頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データおよび病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

もみじあおい

「紅葉葵」と書く。学名;Hibiscus coccineus Walter. 英名;Scarlet rosemallow. あおい科ふよう属。北アメリカ原産。多年生草本。国内では各地に植栽。7~9月頃に赤色の花を付ける。ジヒドロイソクロメン系 cyanidin配糖体(Intestinal α -Glucosidase阻害活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。